

【表題】 小型飛行機の事故に関する傾向と考察【調査報告】

【著者】 井上 国俊

【発表】 航空大学校研究報告 R-67

【時期】 2014年11月

【概要】

近年、飛行計器やその他の装備においてもデジタル技術が導入され始め、これまでのアナログコックピットからグラスコックピットへと変化しつつあり、GPWS や TCAS などと同等の機能を有するような機器も装備されている。

このように大型旅客機にも匹敵するような装備が導入され始め、安全性の向上が期待される場所であるが、それらを扱う操縦者のエラーによる航空事故が依然と多く発生しているのも事実である。小型飛行機においては特に、一人乗りでの有視界飛行方式による飛行が多くの割合を占め、様々なタスクに一人で対処しなければならない。よって発生する航空事故も多種多様である。

本報告書は、これら事故の再発防止に資するため、過去に運輸安全委員会から公表された航空事故調査報告書を基に事故内容を調査・分析し航空事故の傾向を把握しようとするものである。